



「ひかりの子幼稚園が目指すもの」

先月号のひかりのこつうしんは「就学前教育～心が動く経験が与えるもの～」というテーマでお伝えしましたところ、保護者の方から感想を頂戴しましたのでご紹介させていただきます。

Aちゃん

ここに転園する前に在籍していた姉の園は足し算や時計の読み方を教えていて、参観でその取り組みを保護者に見てもらおう。一人ずつ当てられ前に出て答えを言う。間違えると「もう1回！」と全員から言われ悲しい思いをし、それ以来手を挙げなくなった卒園児のお母さんより……。 (掲載承諾済み)

姉が小学校に入学して驚いたことの一つに、クラス参観、学年合同参観で先生が「～についてどう思いますか？」「～どう感じましたか？」の質問にひかりの子の卒園児は、本当に良く手を挙げることだった。正解か不正解かそれは問題ではなく、自分の思いを言葉にし、先生やみんなに受け止めてもらえることを喜んで発表していると感じた。

しかし姉はなかなか手を挙げることができなかったが、ある日発表することができた。その時の気持ちを尋ねると、「勇気を出して発表したら、みんなが私の話を聞いてくれてとても気持ちよかった！」と言い、その言葉を聞いてとても嬉しかった。

「できる」「できない」で我が子を見るのではなく、子どもの行動を応援し、気持ちを聞いてあげようと思った

子どもの姿に刺激を受け、また「つうしん」を読んで今後も母親として成長していきたいと思った。

Bちゃん

上の子は何でも興味がありひらがなもスラスラ書くことができ小学校へ入学したが、下の子はさっぱりで小学校大丈夫かな？と心配していた。でも園や家庭でたくさんの経験をする事、自分の気持ち話すこと、感性を育むことを大切に、その子なりの成長を願い喜ぼうと思え安心した。

との事でした。

クリスマスの取り組みを見て頂き感じて下さったことだと思いますが、どの行事でもひかりの子が大切にしているのは、完成度や見栄えをよくする大人主導の保育ではありません。

当日までの活動の中で「自分たちでやってみたい」という思いが高まるプロセスを大切にしています。

- 自分の意見をみんなや先生が「うんうん」と聞いてくれ、認められた経験
- みんなと違う意見を出し、「どうしたらいいんだろう」と困ったけど一生懸命考えた経験
- 誰かのために自分ができることを考えた経験
- そのことを誰かが喜んでくれた経験

上手くいったことも行かなかったことも、試行錯誤したすべての経験がその子の糧となり自信となり、将来の豊かな成長に繋がると信じています。

そしてひかりの子に関わるすべての子ども・保護者・保育者が共に成長することが、学園の理念であり、目指している姿です。

今年もあと 1 週間で終わろうとしています。大きな事故なく新しい年を迎えられること、保護者の皆様のご理解に支えられましたこと、心より感謝申し上げます。皆さまの健康と幸せをお祈りしています。どうぞ良いお年をお迎えください。

園長 松本 直子